

空の観測機

今日もJALグループの翼をお選びいただき、ありがとうございます。

皆さまは、下のロゴをご覧になつたことはありますか？「CONTRAIL」と名付けられた、「大気観測プロジェクト」のシンボルマークです。1993年から30年以上、JALの定期便に「大気観測装置」を載せ、研究機関の皆さんと共に上空のCO₂などの温室効果ガスを測定してきました。

得られたデータは、地球規模の大気の状態や気候変動のメカニズム解明に役立てられています。なぜエアラインが？と思われるかもしれません。実は航空機を活用することで、地上観測が難しいエリアや高度ごとの大気の違いを捉えることができます。具体的な解決策がすぐに生まれるものではありませんが、これまで集めてきた、また今後も蓄積されていく多くのデータは、やがて社会全体の判断や決断につながっていく、大変価値ある材料なのです。そして今、毎年世界の至る所でCO₂濃度が高くなっていることがデータとして裏付けされるなど、その実態の解明が進んできています。

昨年12月、この大気観測の役割が、長年担つてきたボーイング777型機から、787型機へと引き継がれました。これは装置の載せ替えだけで



とても愛おしくなるものです。

澄んだ青空に、上空からの景色もとりわけ美しく感じられる季節です。私はかつて客室乗務員として乗務する中で、上空から、そして地上でも、地球が見せてくれるさまざまな顔に何度息をのんだことかわかりません。その一方で、それらが変わりつつある厳しい現実も受け止めました。JALグループはこれからも、一つ一つ地道に積み重ねながら、次の世代に未来の空とかけがえのない景色をつないでまいります。

次回のご搭乗も心よりお待ちしています。

イラスト／山本祐布子

ひとりみつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。1985年4月入社（客室業務職）。2019年に客室安全推進部部長、2020年に執行役員・客室本部長、2022年に常務執行役員・客室本部長、2023年に専務執行役員・カスタマーエクスペリエンス本部長に就任。同年6月に代表取締役事務執行役員・グループCCOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。



なく、機体そのものの改修が必要となる大掛かりなもので、私も改めてその準備の大変さを知ることになりました。機体の安全性を確保しながら、これまでと同じ精度のデータを取得するため、整備士たちは試験や調整を何度も重ね、国内外のメイカーの方々と力をあわせて、5年かけてようやく最初の1機を完成させています。今年度中に5機誕生する予定ですが、この“CONTRAIL号”たちがCO₂を観測するというミッションを人々と全うしていくことを考えると、その健気な姿がとても愛おしくなるものです。

たびとりどり

代表取締役社長 グループCEO

鳥取三津子

※ 大気観測事業「CONTRAIL」は、2006年以降、環境省の支援を受けて実施しています。